

環境影響評価準備書等説明会

次第

開会

一 都市計画決定権者挨拶

一 出席者紹介

一 環境影響評価準備書について

一 都市計画の案について

一 質疑応答

閉会

環境影響評価準備書について



江南市の木「くろがねもち」

江南市

環境影響評価の手続

3

愛知県の環境影響評価手続

環境影響
評価の
手続

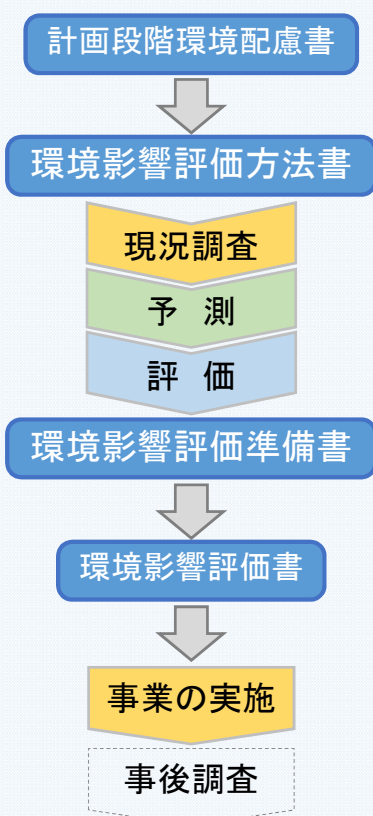
事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続



環境影響評価(環境アセスメント)とは

開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすのかについて、あらかじめ事業者自らが調査・予測・評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていこうという手続き。

本事業の環境影響評価手続

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

配慮書



方法書

現況調査

予測

評価

準備書



評価書

配慮書 平成30年8月

計画の複数案を環境面から検討する手続

- ・煙突配置の複数案
- ・各案の環境影響(大気質・景観)の予測評価結果

方法書 平成31年2月

環境影響評価項目を選定し、調査・予測・評価
手法を検討する手続

準備書 今回

調査・予測・評価の結果や環境保全
措置の検討結果などを取りまとめ、住
民や知事などから意見を聞く手続



都市計画決定権者及び事業者の名称

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

新ごみ処理施設整備事業は、「都市計画法」の手続きを伴う
事業であることから、都市計画決定権者である江南市が、
「愛知県環境影響評価条例」の規定に基づき、環境影響評
価手続を行う。

都市計画決定権者

江南市

環境影響評価
手続の実施者

事業者

尾張北部環境組合

ごみ処理施設
整備の事業主体

事業計画の概要

7

事業の目的

国 ごみ処理の広域化を推進

愛知県 「第2次愛知県ごみ焼却処理広域化計画」を策定
2市2町(犬山市、江南市、大口町、扶桑町)の
現有施設を統合

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

【既存施設の概要】

江南丹羽環境管理組合
環境美化センター

昭和57年11月
供用開始

150t/日



事業実施区域



犬山市
都市美化センター

昭和58年4月
供用開始

135t/日



事業の目的

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

2市2町は、
「尾張北部地域第1小ブロックごみ処理広域化実施計画
(改訂版)」(以下「広域化実施計画」という。)を策定
目標:平成37年度(令和7年度)の新ごみ処理施設稼働



効率的かつ確実にごみ処理事業を推進し、
循環型社会の形成に取り組むため、
平成29年4月「尾張北部環境組合」を設置

対象事業の目的

広域化実施計画に基づいた
2市2町の新ごみ処理施設の建設

事業実施区域の位置

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

項目	概要
位置	江南市中般若町北浦地内
面積	約3.0ha



建設地の決定経緯

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

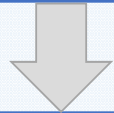
周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

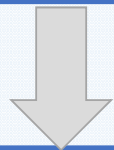
今後の
手続

- 最も多くごみを排出する
- 広域の処理施設が1つもないこと
⇒平成24年10月の第1小ブロック(2市2町)会議で
江南市が受け入れを表明



5つの候補地について、
一定の評価基準に基づいた評価を実施

江南市は評価結果の最も高かった江南市中般若町北浦を提示



・地元説明会
・施設見学会
・アンケート等

概ね地元の合意形成は得られたとし、
平成28年3月の第1小ブロック会議で
江南市中般若町北浦地内を正式な建設地として決定

事業の内容①

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

都市計画対象事業の種類

ごみ処理施設（ごみ焼却施設）の設置事業

本事業の事業方式

◆可燃ごみ処理施設：DB+0方式（長期包括運營業務委託方式）

施設の所有権は組合が保持し、その下
で施設の設計・建設及び運営・維持管
理を民間事業者に一括発注し委託する。

◆粗大ごみ処理施設：DBM方式

施設の所有権は組合が保持し、運転は
組合が行い、施設の設計・建設及び定
期整備修繕等の維持管理を民間事業者
に一括発注し委託する。



事業の内容②

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

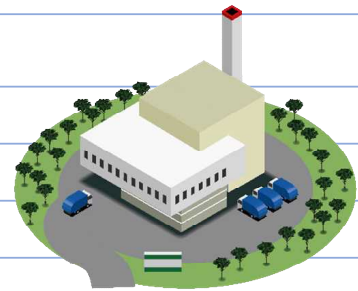
周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

処理施設	項目	計画諸元
可燃ごみ 処理施設	処理能力	196 t/日 (98 t/日 × 2炉)
	処理方式	未定(以下の処理方式から決定) ・ストーカ式焼却炉+灰の外部資源化 ・ガス化熔融炉・シャフト式 ・ガス化熔融炉・流動床式
	処理対象ごみ	可燃ごみ、破碎選別可燃残渣、し渣及び脱水汚泥、 災害廃棄物
	公害防止設備	適切な公害防止設備を備えた施設を整備する
	煙突高さ	未定(航空法による高さ制限を受ける。)
	運転計画	24時間連続運転
	エネルギー 回収率	19%以上
粗大ごみ 処理施設	処理能力	14 t/日 (5時間)
	処理方式	破碎・選別
	運転計画	5時間運転
稼働目標年度		令和7年度



施設配置計画

施設の配置・構造等は民間事業者決定後に詳細な設計を行う

現段階でのイメージ

浸水想定区域(木曾川)であるため計画地盤高さはT.P. 31m以上とする。

敷地境界の周辺には緩衝緑地帯を設ける。

構内動線を長くとれる配置とする。



環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

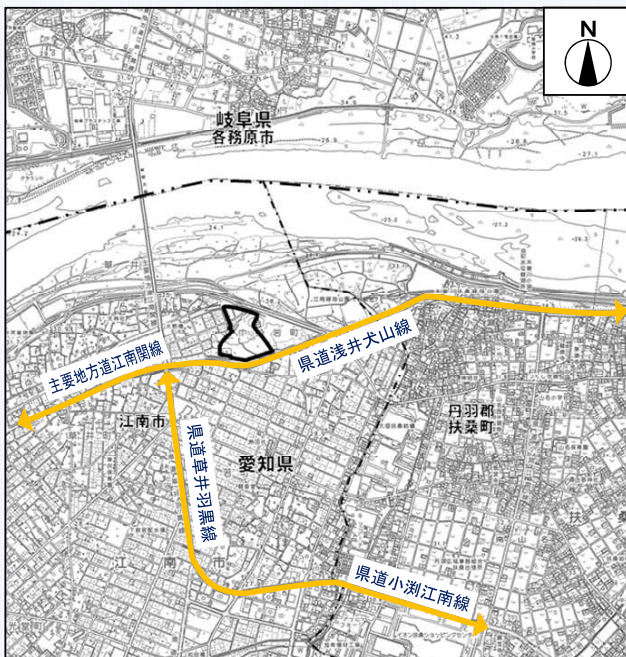
今後の
手続

公害防止基準

本事業では、周辺環境への影響を可能な限り低減するため、規制基準等に比べ、より厳しい値を自主規制値として設定し、地元と公害防止協定を締結しました。

項目	単位	自主規制値	計画施設に係る規制基準値	既存施設	
				犬山市都市美化センター 法規制値	江南丹羽環境管理組合環境美化センター 法規制値
排出ガス	硫黄酸化物(SOx)	ppm	10	— (K値=9.0)	K値=9.0
	窒素酸化物(NOx)	ppm	25	250	250
	塩化水素(HCl)	ppm (mg/m ³ _N)	10 (16)	430 (700)	(700)
	ばいじん	g/m ³ _N	0.01	0.04	0.15
	水銀 ^{注2)}	μg/m ³ _N	30	30	50
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ _N	0.01	0.1	5
騒音	昼(8時~19時)	dB	50	60	60
	朝・夕(6時~8時、19時~22時)	dB	50	55	55
	夜(22時~翌6時)	dB	50	50	50
振動	昼間(7時~20時)	dB	55	65	65
	夜間(20時~翌7時)	dB	55	60	60
悪臭	臭気指数(敷地境界)	—	13	18	18

収集運搬関連



車両台数

項目	台/日	
	大型	小型
廃棄物運搬車両	120	—
直接搬入車両	35	132
合計	155	132

大型: パッカー車、普通貨物車
 小型: 乗用車、小型貨物車(軽トラック等)

受入計画

月~金 8:30~17:00
 土 8:30~13:30

工事計画の概要(予定)

令和3年度に工事着手し、4年間に渡り工事を実施したのち、供用開始は令和7年度を予定しています。



項目		年度	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
造成工事			→				
ごみ処理 施設等 建設工事	杭工事、 山留・掘削工事			→			
	躯体工事			→			
	仕上げ工事					→	
	付属棟工事					→	
	プラント設備工事			→			
	外構工事					→	
試運転						→	
供用							→

事業計画策定時の主な環境配慮事項(1)

工事中

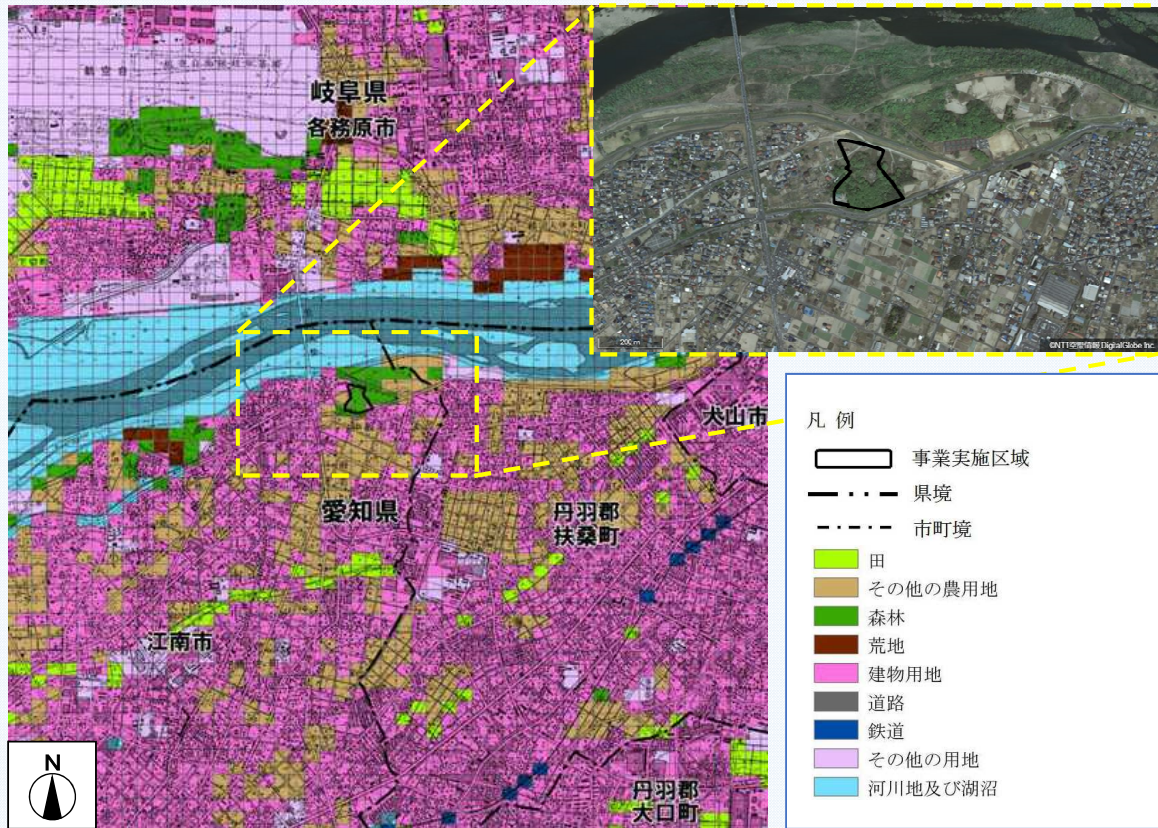
- 施工方法や工程等を十分に検討して建設機械の集中稼働を避ける。
- 資材等の搬入時期・時間帯の分散化を図り、車両の集中を避ける。
- 資材等運搬車両は、低公害車を可能な限り使用する。
- 事業実施区域の周囲には仮囲いを設置し、周辺地域への粉じんの飛散や騒音を防止する。
- 排水は仮設沈砂池等を設け、適正に処理を行ったのち、既存の排水路へ放流する。
- 工事着手前の土壌汚染対策法及び県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく調査で土壌汚染が判明した場合は、掘削除去等適切に対応する。
- 工事に伴う発生土は可能な限り再利用を図り、残土の発生を抑制する。

供用時

- 大気質、騒音、振動、悪臭について、規制基準に比べ、より厳しい値を自主規制値として設け、これを遵守する。
- 高効率な排ガス処理設備の導入により、大気汚染物質の排出濃度の低減を図るとともに、定期的な調査を実施して、適正に管理する。
- 燃焼温度、ガス滞留時間等の管理による安定燃焼の確保に努め、ダイオキシン類の発生を防止する。
- 設備機器類については、低騒音型・低振動型機器の採用に努めるとともに、建屋内への配置を基本とし、騒音・振動の低減に努める。
- 車両が短時間に集中することを避けるため、2市2町及び組合で運行計画を策定し、搬入及び搬出時間帯の車両の分散を図る。
- 廃棄物運搬車両は、低公害車を可能な限り使用する。
- 周辺への日影の影響が小さくなるよう建築物の配置、形状、高さ等について配慮する。
- 余熱は場内で電力や温水等として利用するとともに、他施設への電力供給や余剰電力の売電、蒸気の供給を検討する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

事業実施区域及び その周囲の概況

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

環境影響評価 項目の選定

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

環境影響要因

工事中



- ・ 資材等の搬入及び搬出
- ・ 建設機械の稼働等
- ・ 掘削・盛土等の土工

供用時

施設の存在

- ・ 地形改変並びに施設の存在

施設の供用



- ・ ばい煙の排出
- ・ 機械等の稼働
- ・ 汚水の排出
- ・ 廃棄物等の搬入及び搬出
- ・ 施設からの悪臭の漏洩

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施			施設の存在	施設の供用				
			資材等の搬入及び搬出	建設機械の稼働等	掘削・盛土等の土工	地形改変並びに施設の存在	ばい煙の排出	機械等の稼働	汚水の排出	廃棄物等の搬入及び搬出	施設からの悪臭の漏洩
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気質	硫黄酸化物					◎				
		窒素酸化物					◎				
		浮遊粒子状物質	○	○			◎			○	
		粉じん等	○	○	○						
	騒音及び超低周波音	有害物質等					◎				
		建設作業等騒音		○							
		施設からの騒音						○			
		道路交通騒音	○							○	
	振動	低周波音						○			
		建設作業等振動		○							
	悪臭	施設からの振動						○			
		道路交通振動	○							○	
水質	特定悪臭物質、臭気指数									○	
	水素イオン濃度			○							
		水の濁り(浮遊物質量)			○						

注) 表中の「○」は選定した項目を、「◎」は配慮書においても選定した項目を示す。

選定項目-2

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

環境要素の区分	影響要因の区分		工事の実施			施設の存在	施設の供用				
	地盤・土壌	地下水の状況及び地下水質	資材等の搬入及び搬出	建設機械の稼働等	掘削・盛土等の土工	地形改変並びに施設の存在	ばい煙の排出	機械等の稼働	汚水の排出	廃棄物等の搬入及び搬出	施設からの悪臭の漏洩
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	地盤・土壌	土壌環境			○						
	地下水の状況及び地下水質	地下水の状況			○	○					
		地下水質				○					
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	動物 植物 生態系	日照障害				○					
		重要な種及び注目すべき生息地		○	○	○					
		重要な種及び群落				○	○				
		地域を特徴付ける生態系		○	○	○					
人と自然との豊かな触れ合いの確保及び地域の歴史的・文化的特性を生かした快適な環境の創造	景観	景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観				◎					
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○			○				○	
環境への負荷の量の程度	廃棄物等	廃棄物					○	○	○		
		残土その他の副産物			○						
	温室効果ガス等	温室効果ガス等	○	○			○	○		○	

注)表中の「○」は選定した項目を、「◎」は配慮書においても選定した項目を示す。

調査・予測及び評価結果

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

現地調査項目

大気質

騒音
振動
低周波音

悪臭

水質

地盤・土壌

地下水
地下水質

日照障害

動物・植物・
生態系

景観

人と自然との
触れ合いの
活動の場

予測のみ行う項目

廃棄物等

温室効果ガス
等環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

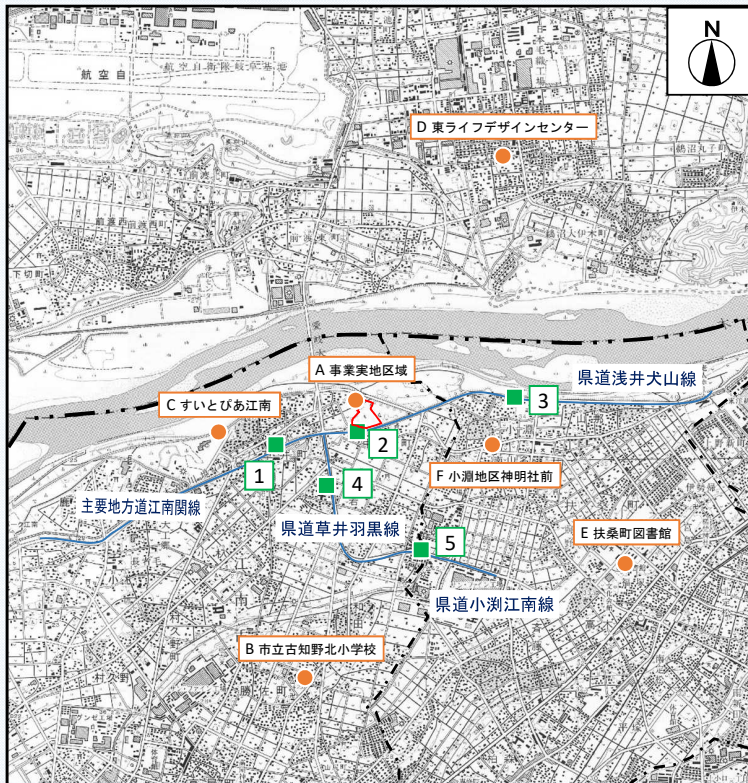
予測の基本的な手法



A) 計算やシミュレーションなどによる方法

B) イメージ写真などによる視覚的な方法

C) 調査結果・事業計画・類似事例などに
基づいた方法

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

- 事業実施区域
- 環境大気質調査地点
- 沿道大気質調査地点

調査結果

すべての地点、項目
で環境基準を達成して
いた。

「環境基準」とは

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

人の健康の保護や生活環境の保全の上で 維持されることが望ましい基準

健康等を維持するための最低限度としてではなく、積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていく行政上の目標(※大気質であれば、ずっとこの空気を吸っていても健康上の問題はないという値)。

現在得られる限りの科学的知見を基礎としており、環境基本法、ダイオキシン類特別措置法などで定められている。

→環境影響評価では、現況や予測結果を
評価する際の指標として使用



大気質 予測結果

工事の実施 資材等の搬入及び搬出

NO ₂	二酸化窒素
SPM	浮遊粒子状物質

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.009	0.04以下
SPM	0.030	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.009	0.04以下
SPM	0.030	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.009	0.04以下
SPM	0.030	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.009	0.04以下
SPM	0.030	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.009	0.04以下
SPM	0.030	0.10以下

予測結果

すべての地点で環境基準を満足する。

大気質 予測結果

工事の実施 建設機械の稼働等・掘削、盛土等の土工

大気質の予測結果(建設機械の稼働等:年平均値)

予測地点	項目	付加濃度 ①	現状濃度 ②	将来濃度 ①+②	環境基準
最大着地濃度地点	二酸化窒素 (ppm)	0.00141	0.007	0.008	0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.00051	0.016	0.017	0.10以下

予測結果

- 二酸化窒素、浮遊粒子状物質は長期的評価及び短期的評価いずれにおいても環境基準を満足する。
- 粉じんが飛散する風速5.5m/秒の年間出現頻度(時間)は1.4%、年間出現頻度(日)12.0%であり、粉じんが飛散すると考えられる場合には散水を行う
→環境への影響の程度は小さい。

大気質 予測結果

施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

NO ₂	二酸化窒素
SPM	浮遊粒子状物質

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.008	0.04以下
SPM	0.016	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.008	0.04以下
SPM	0.016	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.009	0.04以下
SPM	0.016	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.008	0.04以下
SPM	0.016	0.10以下

項目	将来濃度	環境基準
NO ₂	0.008	0.04以下
SPM	0.016	0.10以下

予測結果

すべての地点
で環境基準を
満足する。

大気質 予測結果

施設の供用 ばい煙の排出：長期的評価（年平均値）

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

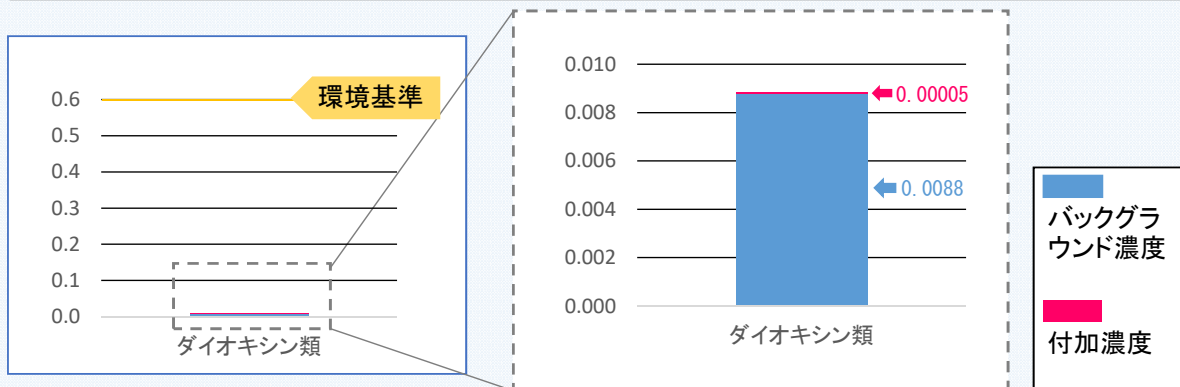
調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

予測地点	項目	予測結果 (年平均値)	環境基準等
最大着地濃度地点	二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.04以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.015	0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.038	0.10以下
	水銀 (μg/m ³)	0.002	0.04以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.009	0.6以下

予測結果

長期的評価はすべての地点で環境基準を満足する。



大気質 予測結果

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

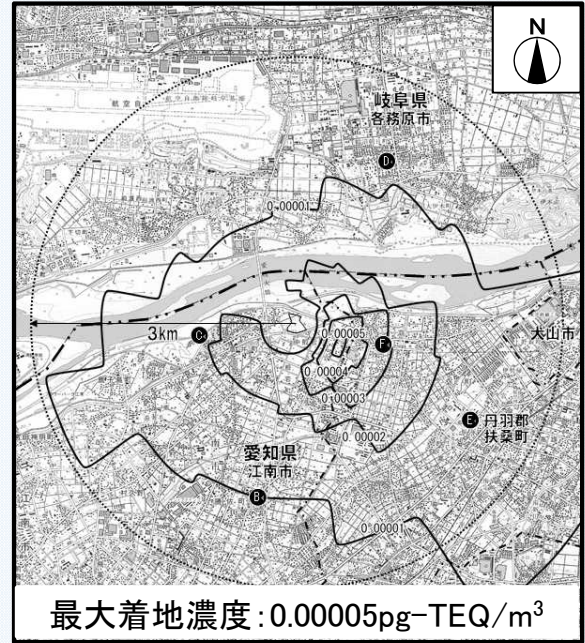
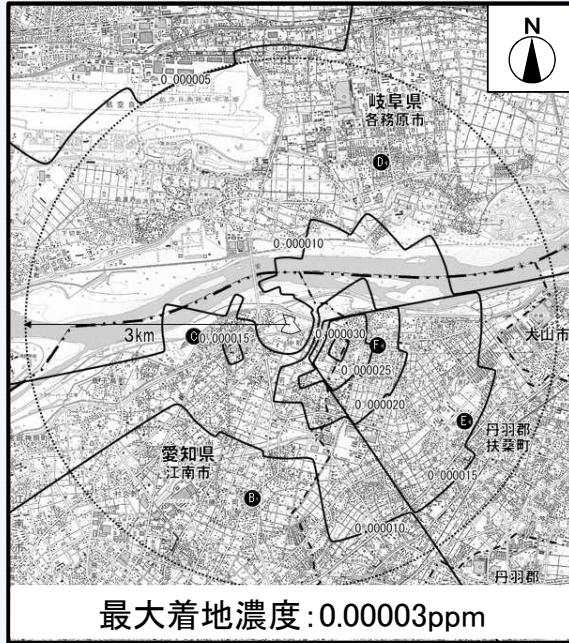
調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

施設の供用 ばい煙の排出：長期的評価（年平均値）

大気質予測結果（煙突排出ガス）
（二酸化窒素：年平均値）

大気質予測結果（煙突排出ガス）
（ダイオキシン類：年平均値）



大気質 予測結果

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

施設の供用 ばい煙の排出：短期的評価（1時間値）

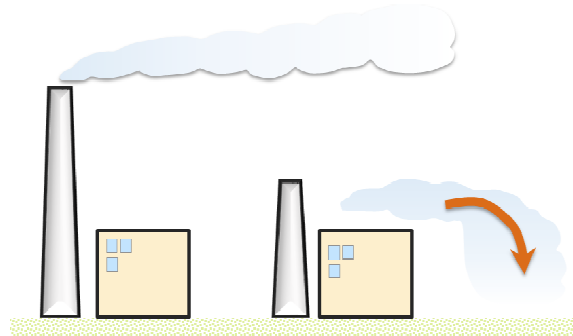
項目	項目	予測結果 (1時間値)	環境基準等
ダウン ドラフト時	二酸化硫黄	0.0136	0.1以下
	二酸化窒素	0.0500	0.1～0.2以下
	浮遊粒子状物質	0.1046	0.20以下
	塩化水素	0.0063	0.02以下

予測結果

短期的評価はすべての地点で環境基準等を下回る

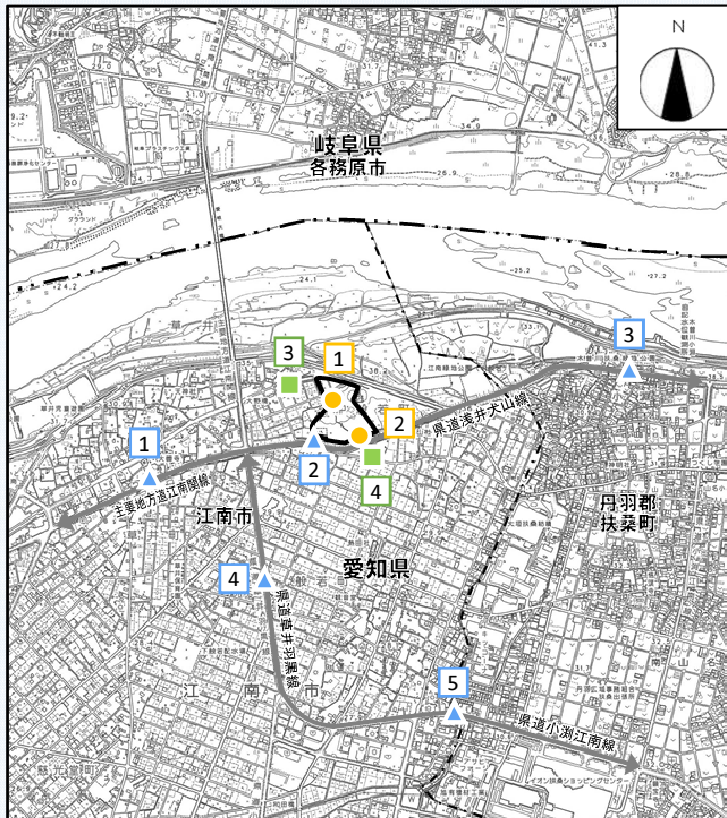
「ダウンドラフト」とは

煙突の高さと建物の高さの差が小さい場合に、建物の影響によって生じる乱気流に排ガスが巻き込まれる現象



環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	積載量に応じた適正な車種の選定による運搬の効率化を推進することにより、さらに資材等運搬車両の走行台数を減らすよう努める。
	構内道路への鉄板の敷設等を行い、粉じんの飛散を防止する。
	建設機械の整備、点検を徹底する。
	工事規模に合わせた建設機械の設定を行い、排出ガスの排出の抑制に努める。
施設の供用	事業実施区域内に掘削土等を仮置きする場合は、シート等で養生し粉じんの飛散を防止する。
	ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで大気汚染物質の低減に努める。
	設備機器類は、定期点検を実施し、常に正常な運転を行うように維持管理を徹底する。
	朝・夕の交通量増加時には、廃棄物運搬車両の台数を抑えるよう努める。
	廃棄物運搬車両等の運転者に対して、交通ルールの順守などの交通安全教育を行う。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

- 事業実施区域
- 環境騒音・振動、低周波音調査地点
- 環境騒音・振動調査地点
- ▲ 道路交通騒音・振動調査地点

調査結果

環境騒音・振動

すべての地点で環境基準等を満足していた。

道路交通騒音・振動

すべての地点で環境基準等を満足していた。

低周波音

すべての地点で心身に係る苦情に関する参照値以下であった。

「デシベル(dB)」とは

デシベル(dB)

騒音や振動の大きさの単位で、物理的なエネルギーの大きさを、人の感覚に合わせて補正したもの。



騒音レベルの目安 [dB]

騒音レベル	大きさの目安
120	飛行機のエンジンの近く
100	電車通過時のガード下
80	パチンコ店内
60	普通の会話
50	静かな事務所の中
40	図書館の中
20	木の葉の触れ合う音
0	人が聞くことができる最小の音

➡人が音の大きさの違いが分かるのは約3デシベルといわれている。

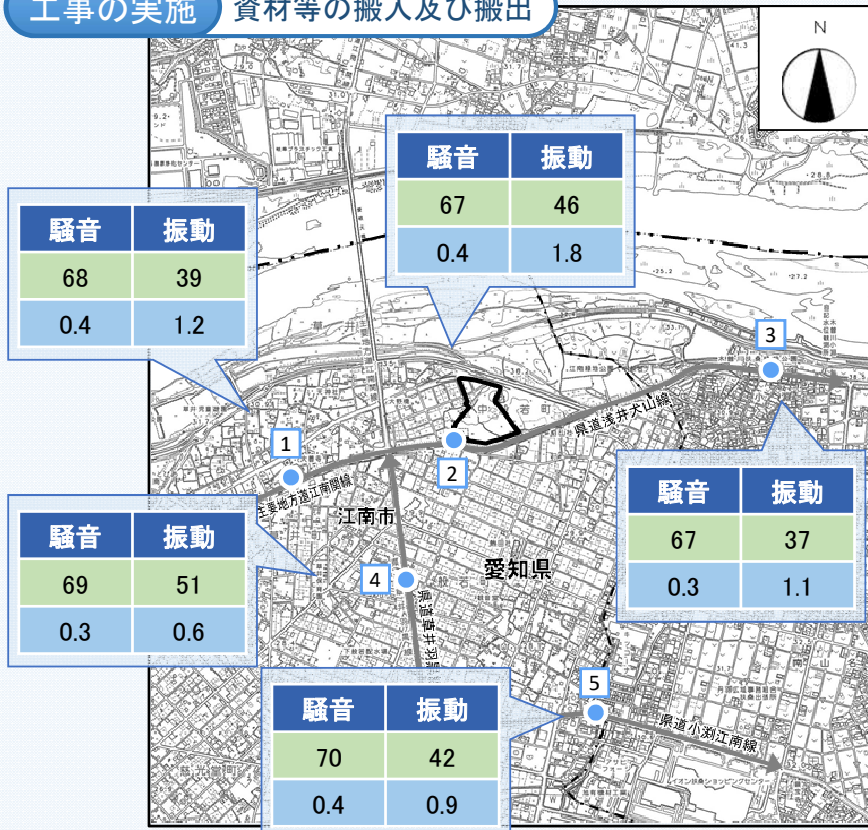
振動レベルの目安 [dB]

振動レベル	震度	大きさの目安
90	4	眠っている人が目を覚ます。
80	3	室内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
70	2	室内にいる人の多くが揺れを感じる。
60	1	室内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
50	0	人は揺れを感じない。

➡人が揺れを感じ始めるのは55デシベル(振動感覚閾値)といわれている。

騒音・振動 予測結果

工事の実施 資材等の搬入及び搬出



環境基準等

騒音 (デシベル)	振動 (デシベル)
70以下	70以下

項目

将来騒音・振動レベル

増加量

予測結果

すべての地点で基準値を満足する。

騒音 予測結果

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

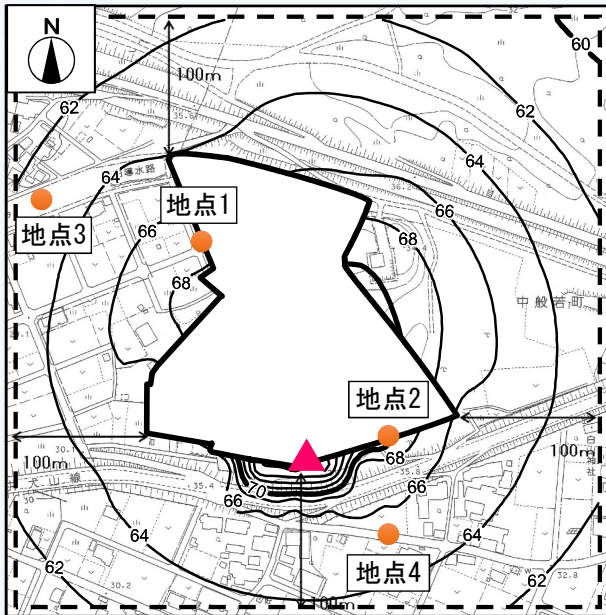
周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

工事の実施 建設機械の稼働等



凡 例

- 対象事業実施区域
- 予測地域
- ▲ 最大レベル地点 (79デシベル)
- 予測地点

[騒音] 単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	79	85以下
地点1	67	
地点2	70	
地点3	63	
地点4	66	

振動 予測結果

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

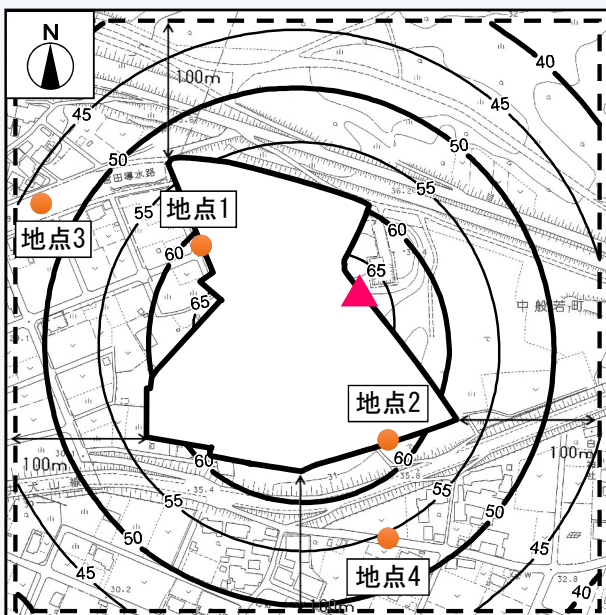
周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

工事の実施 建設機械の稼働等



凡 例

- 対象事業実施区域
- 予測地域
- ▲ 最大レベル地点 (68デシベル)
- 予測地点

[振動] 単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	68	75以下
地点1	61	
地点2	63	
地点3	47	
地点4	55	

騒音・振動 予測結果

施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出

環境影響評価の
手続

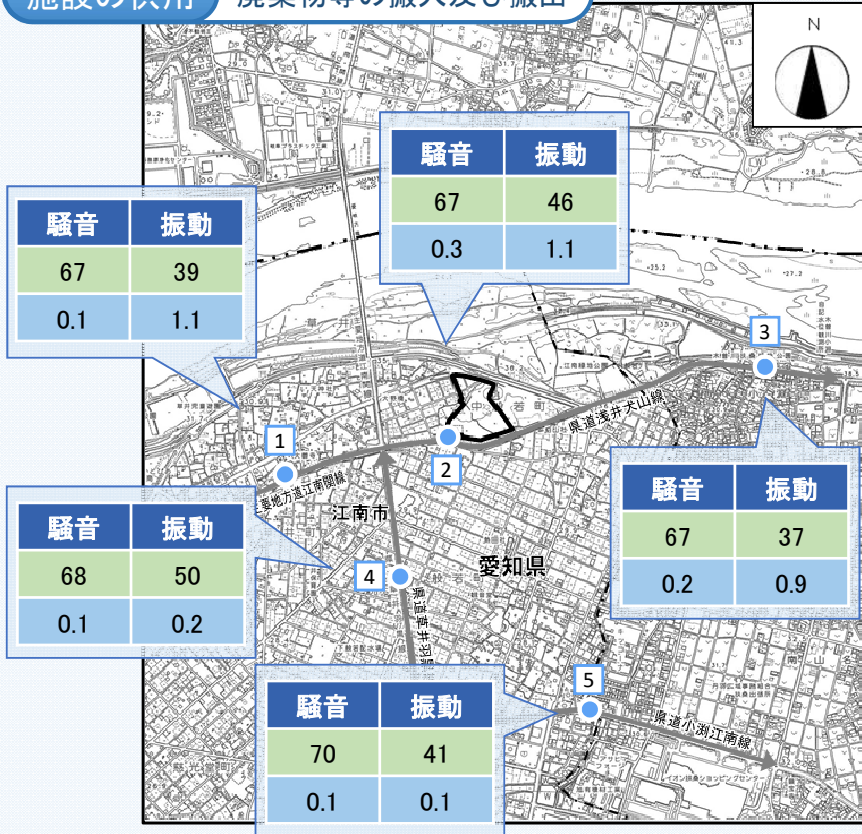
事業計画の
概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目の
選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続



環境基準等	
騒音 (デシベル)	振動 (デシベル)
70以下	70以下

項目
将来騒音・ 振動レベル
増加量

予測結果

すべての地点
で基準値を満
足する。

騒音 予測結果

施設の供用 機械等の稼働：昼間

環境影響
評価の
手続

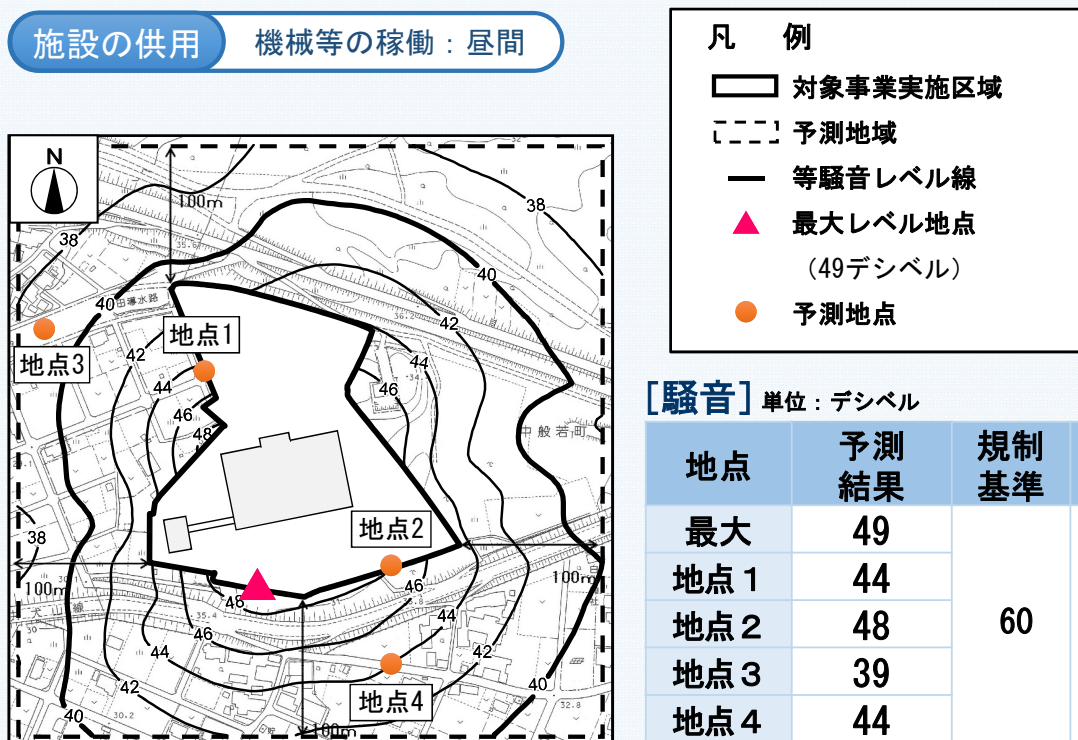
事業計画の
概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目の
選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続



騒音 予測結果

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

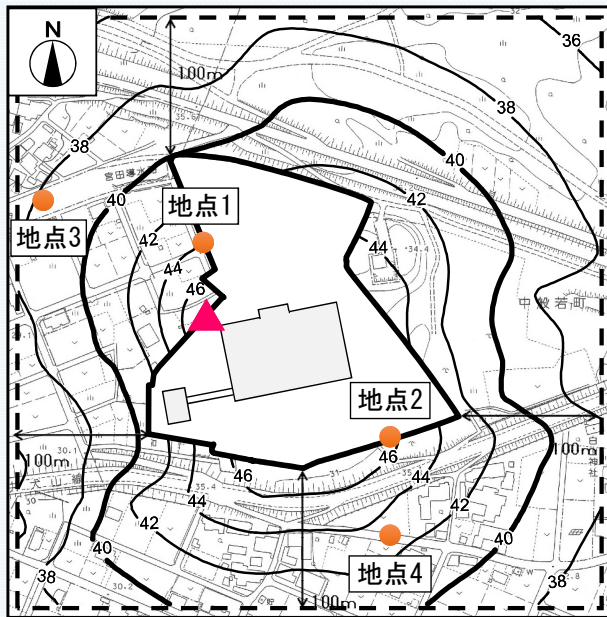
周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

施設の供用 機械等の稼働：夜間



凡 例

- 対象事業実施区域
- 予測地域
- 等騒音レベル線
- ▲ 最大レベル地点
(48デシベル)
- 予測地点

[騒音] 単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準	自主規制
最大	48	朝・夕 ：55 夜間： 50	50
地点1	43		
地点2	47		
地点3	38		
地点4	43		

振動 予測結果

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

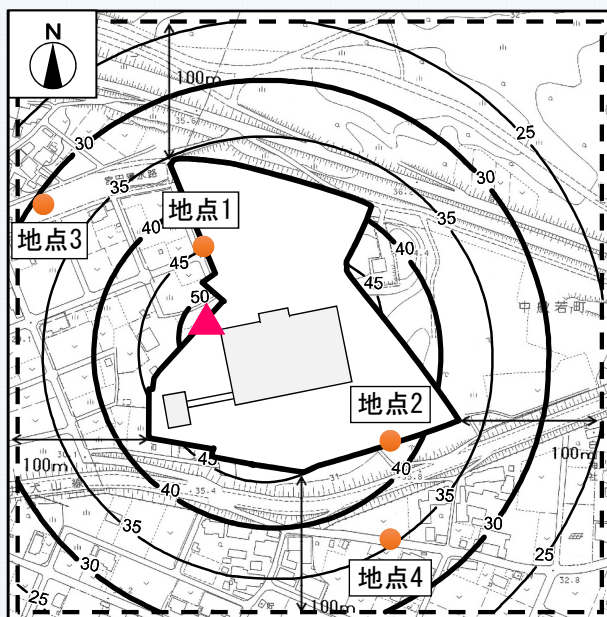
周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

施設の供用 機械等の稼働：昼間



凡 例

- 対象事業実施区域
- 予測地域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点
(54デシベル)
- 予測地点

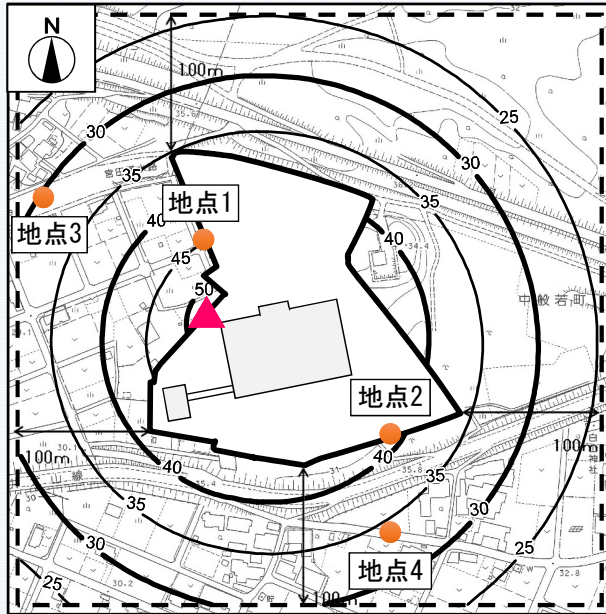
[振動] 単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準	自主規制
最大	54	65	55
地点1	44		
地点2	43		
地点3	30		
地点4	35		

振動 予測結果

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の供用 機械等の稼働：夜間



凡 例

□ 対象事業実施区域

--- 予測地域

— 等振動レベル線

▲ 最大レベル地点
(54デシベル)

● 予測地点

【振動】 単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準	自主規制
最大	54	60	55
地点1	43		
地点2	41		
地点3	30		
地点4	34		

低周波音 予測結果

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の供用 機械等の稼働

類似施設における低周波音の調査結果は、いずれの施設もすべての地点で心身に係る苦情に関する参照値(G特性92デシベル)を下回っている。

類似施設の低周波音調査結果

類似施設	処理能力	施設から調査地点の距離(m)	調査結果(デシベル)	参照値(デシベル)
① ストーカ式	405t/日	5~10	75~80	92
② シャフト式	380t/日	11~23	69~83	
③ 流動床式	315t/日	5~50	72~79	

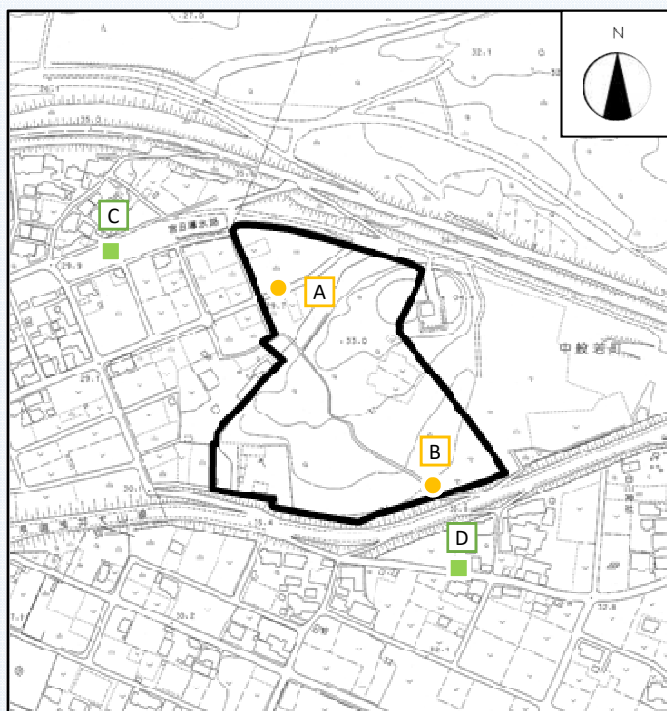
- 壁面からの二次的な低周波音が発生しないよう配慮し、低周波音の発生を防止する計画である。
- 類似施設よりも処理能力が小さい。
- 建屋から敷地境界までの距離が17m程度となる。

予測結果

計画施設においても影響は小さい。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	積載量に応じた適正な車種の選定による運搬の効率化を推進することにより、さらに資材等運搬車両の走行台数を減らすよう努める。
	資材等運搬車両等のエコドライブを徹底する。
	保全対象がある事業実施区域西側には、仮囲いに加えてさらに防音パネルを設置する。
	建設機械の整備、点検を徹底する。
施設の供用	騒音発生源は極力敷地境界から離れた位置に配置する。
	振動を発生する設備機器類の床は、床板を厚くするなど、構造強度を確保する。
	設備機器類は、定期点検を実施し、常に正常な運転を行うように維持管理を徹底する。
	朝・夕の交通量増加時には、廃棄物運搬車両等の台数を抑えるよう努める。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

□ 事業実施区域

● 悪臭(特定悪臭物質・臭気指数)調査地点

■ 悪臭(臭気指数)調査地点

調査結果

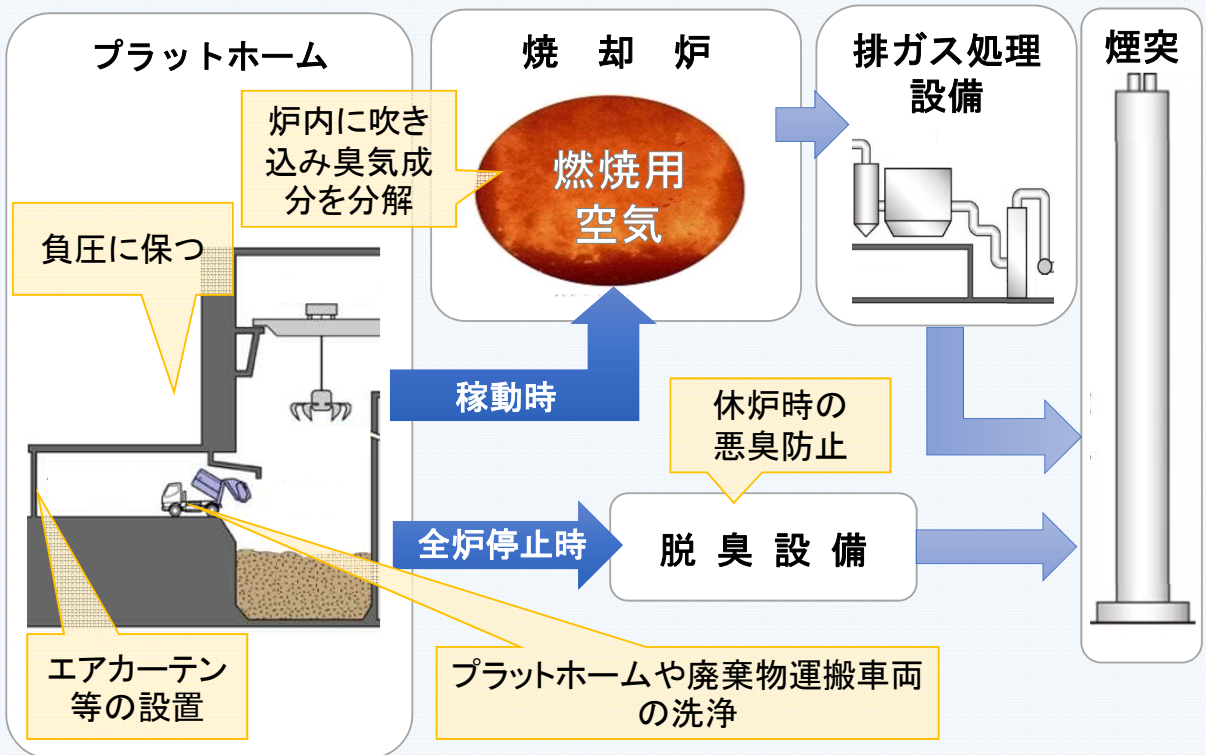
いずれの時期・地点ともに、特定悪臭物質はすべての項目で規制基準値未満※、臭気指数は10未満であった。

※江南市は、悪臭防止法に基づく規制の対象外であるが、参考として第3種地域の規制基準と比較した

悪臭 予測結果・環境保全措置

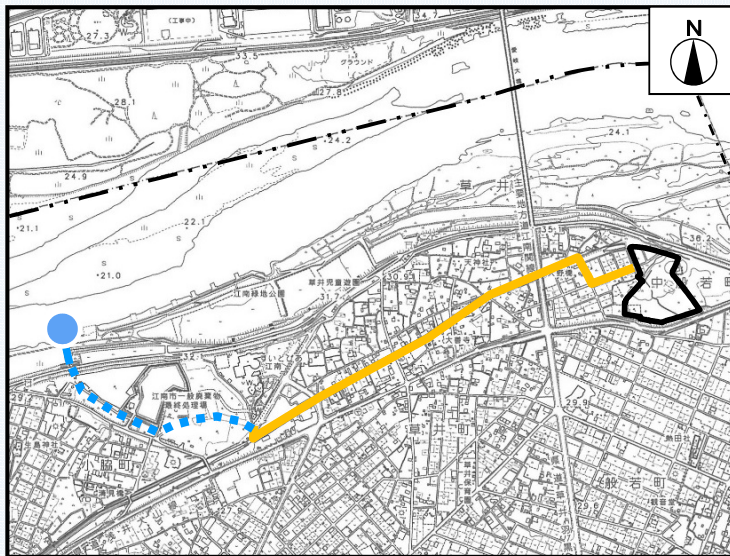
- 環境影響評価の
手続
- 事業計画の
概要
- 周囲の
概況
- 環境影響
評価項目
の選定
- 調査
予測及び
評価結果
- 今後の
手続

施設の供用 悪臭の漏洩



水質 調査結果

- 環境影響評価の
手続
- 事業計画の
概要
- 周囲の
概況
- 環境影響
評価項目
の選定
- 調査
予測及び
評価結果
- 今後の
手続



調査結果

水素イオン濃度は秋季を除き、アルカリ性に偏っている状況であった。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

工事の実施 掘削・盛土等の土工

予測結果

水素イオン濃度

コンクリート工事による排水は、自主的に設定する基準値内になることを確認した上で既存の排水路に放流することから、河川水質の変化は小さい。

水の濁り

工事中の排水は、現地調査結果を踏まえた十分な容量の仮設沈砂池等を設置し、適正に処理を行ったのち、既存の排水路へ放流することから、河川水質の変化は小さい。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因

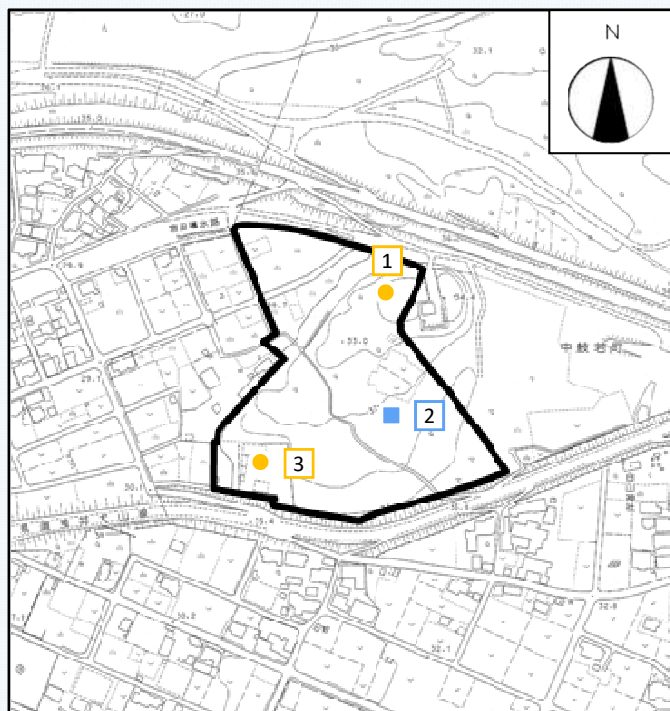
主な環境保全措置

工事の実施

コンクリート工事による排水は、必要に応じて中和処理等を行う。
台風、集中豪雨等が予想される場合には土工事は行わない。
必要に応じて造成面へのシート、土嚢による養生等を行う。
堆砂容量を確保するために、必要に応じて仮設沈砂池の堆砂を除去するなど維持管理に努め、適切に濁水対策を実施する。

(参考) 施設の供用時における排水

- プラント系排水（ごみピット排水、洗車排水、プラットホーム洗浄水）は排水処理を行ったのち場内で使用し、公共用水域への排水は行わない。
- 生活排水は、合併処理浄化槽で処理した後、既存の排水路へ放流する。
- 雨水は、積極的に施設内で再利用し、余剰分は雨水流出抑制設備にて貯留した後、既存の排水路へ放流する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続
 事業実施区域

 土壌環境調査地点

 土壌及び地下水調査地点

調査結果

土壌、地下水質ともに環境基準項目、ダイオキシン類とも、すべての項目において環境基準を下回っていた。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

工事の実施 掘削・盛土等の土工

- 調査結果において、土壌の汚染に係る環境基準項目及びダイオキシン類について環境基準を下回っていた。
- 工事着手前に土壌汚染対策法及び県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく調査を行い、土壌汚染が判明した場合には適切に対応する。

→掘削・盛土等の土工による
土壌汚染の拡散はない。



環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

工事の実施 掘削・盛土等の土工

地下水位の低下

- 掘削については、周辺地下水位の低下を防止する山留壁工法を採用する。
- 必要に応じて地質調査等を行い、ごみピット設置地点の地質調査等を行い不透水層を把握する。
→掘削による水位の低下は小さい。

地下水質の汚染

- 地下水及び土壌の現地調査結果から、地下水汚染及び土壌汚染は確認されていない。
→掘削による地下水汚染の拡散はない。

施設の存在

地下水の状況及び地下水質

地下水の面的な流れに対し、ごみピットの面積は小さく、地下水はごみピットを回り込んで移動する。
→地下水位の低下は小さい。

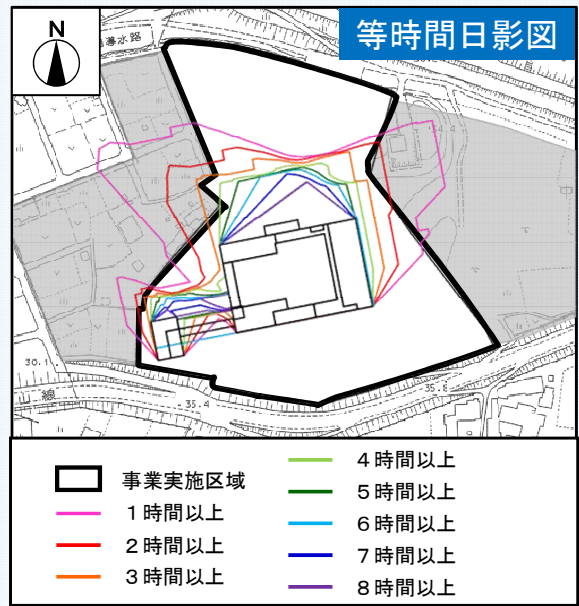
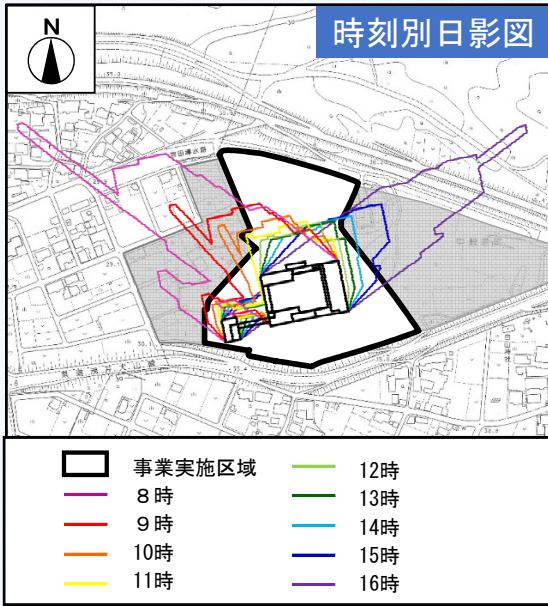
環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因	環境保全措置
工事の実施 (土壌)	発生土を事業実施区域外に搬出する場合は、受け入れ先の受け入れ基準との適合を確認する。
工事の実施・ 施設の存在 (地下水の状 況及び地下 水質)	地下水位の定期的なモニタリングを実施し、地下水位の状況を把握する。
	採用する山留壁工法の適正な施工に努める。
	可能な限りごみピットなどの地下構造物を小さくするよう努める。



日照障害 予測結果

予測結果

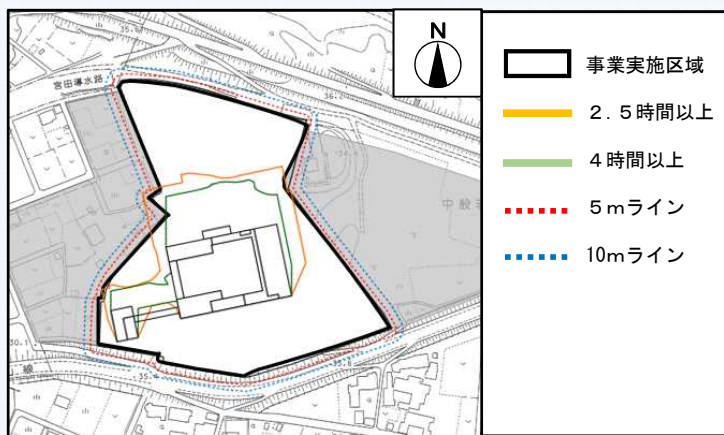


予測結果

煙突の影の位置は時刻とともに移動し、一部、住居等に影がかかる時間がみられるものの、1時間以上の影となる範囲は建物周辺になり住居等は存在しない。

日照障害 環境保全措置

予測結果



予測結果

日影規制を満足している。

環境保全措置

影響要因	環境保全措置
施設の存在	建築物を可能な限り小さくする。
	建築物は、可能な限り敷地境界からの距離を設ける。

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

環境影響
評価の
手続

事業計画
の概要

周囲の
概況

環境影響
評価項目
の選定

調査
予測及び
評価結果

今後の
手続

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

確認された重要な種

項目	重要な種
哺乳類	1種
鳥類	12種
昆虫類	10種
両生類	1種
クモ類	4種
陸産貝類	3種
植物	3種



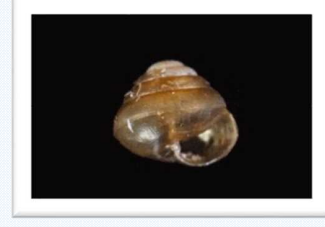
オオタカ



カヤネズミ



トノサマガエル



ウメムラシタラガイ

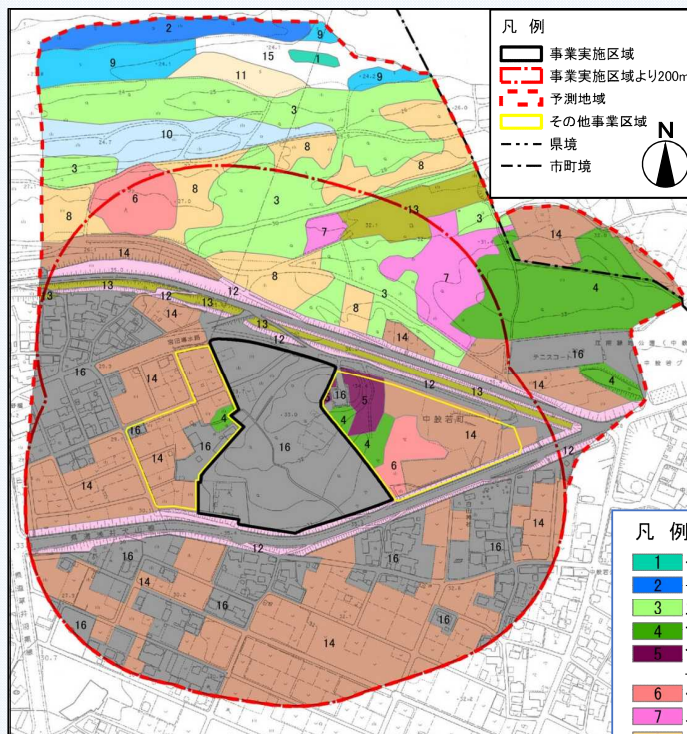


カワラサイコ

ホンドキツネ
(生態系の上位種)環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

工事の実施

施設の存在



ホンドキツネ

事業実施区域内で営巣が確認された生態系の上位種であり、営巣場所が改変されることから影響は**あると予測する**。

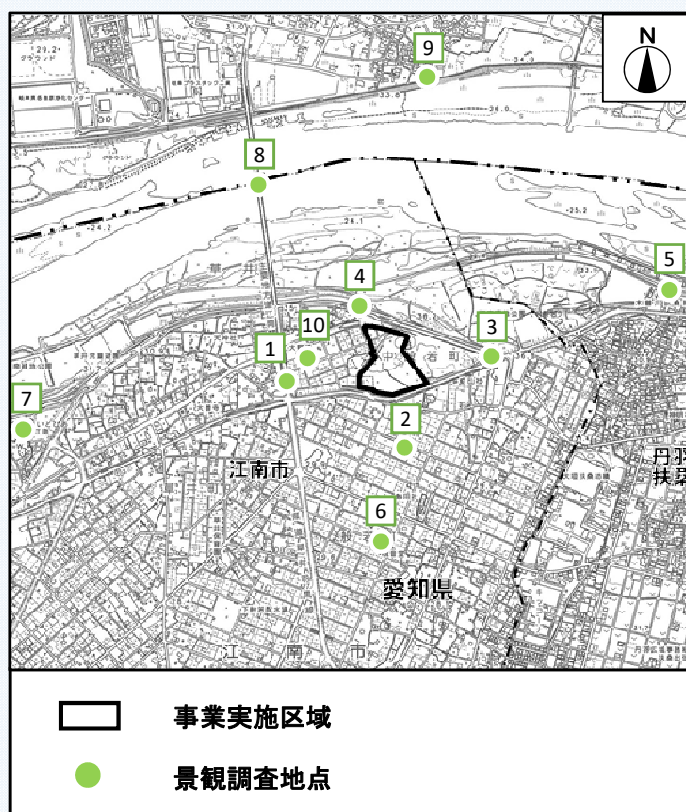
その他の動植物

- 事業実施区域を利用している種はいるものの、同様の環境は事業実施区域周辺に分布している。
- 生息環境への移動は妨げられる可能性は低い。
- 環境配慮事項を講じる。

→影響は極めて小さいと予測する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	工事関係者に対し定期的に地域の自然環境や周辺環境への配慮事項について講習・指導を行う。
	コンクリート工事による排水は、必要に応じて中和処理等を行う。
	伐採後裸地化した場所は、可能な限り速やかに緑化を行い、植生を回復させる。
	変更面積を可能な限り小さくし、保全可能な部分については極力保全を図るよう配慮する。
	掘削土等を仮置きする場合は、シート等で養生し、粉じんの飛散を防止する。
施設の存在	ホンドキツネ及び餌動物の生息場所である河川敷を対象に、ホンドキツネの生息に好適な環境となるような環境整備に向けた関係機関との調整を行う。
	植栽樹木の選定にあたっては、鳥類や昆虫類等の餌となる実をつけたり、樹液を出すような在来種(郷土種)を採用する。
	施設では不要な照明の早期消灯、昆虫類の誘因性が低いとされるナトリウム灯・LED等の設置等の対策により、夜行性動物類の活動や生態系の攪乱防止に努める。
	本事業の緑地における植栽樹種等には、事業実施区域周辺の構成樹種や在来種等を可能な限り利用する。
	現存植生、潜在自然植生などを活用した植栽・緑化計画を策定する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

調査地点

- | | |
|------|--------------|
| 地点1 | 西側住居付近 |
| 地点2 | 南側住居付近 |
| 地点3 | 東側交差点付近 |
| 地点4 | サイクリングロード付近 |
| 地点5 | 木曾川扶桑緑地公園 |
| 地点6 | 般若公園 |
| 地点7 | すいとびあ江南(展望台) |
| 地点8 | 愛岐大橋 |
| 地点9 | 木曾川対岸 |
| 地点10 | 西側最寄住居付近 |

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の存在

地点1 西側住居付近

供用時

※計画施設の色彩や形状等及び隣接するその他事業実施
区域の整備状況については現時点でのイメージです。

将来は、計画施設の建物と煙突が出現することにより、主な景観要素に計画施設が加わり、景観の変化が生じるものと予測する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の存在

地点2 南側住居付近

供用時

※計画施設の色彩や形状等及び隣接するその他事業実施
区域の整備状況については現時点でのイメージです。

将来は、計画施設の建物と煙突が出現することにより、主な景観要素に計画施設が加わり、景観の変化が生じるものと予測する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の存在

地点5 木曾川扶桑緑地公園

供用時

※計画施設の色彩や形状等及び隣接するその他事業実施区域の整備状況については現時点でのイメージです。



将来は、計画施設の煙突の一部が僅かに出現するものの、景観の変化は小さいと予測する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の存在

地点7 すいとぴあ江南(展望台)

供用時

※計画施設の色彩や形状等及び隣接するその他事業実施区域の整備状況については現時点でのイメージです。



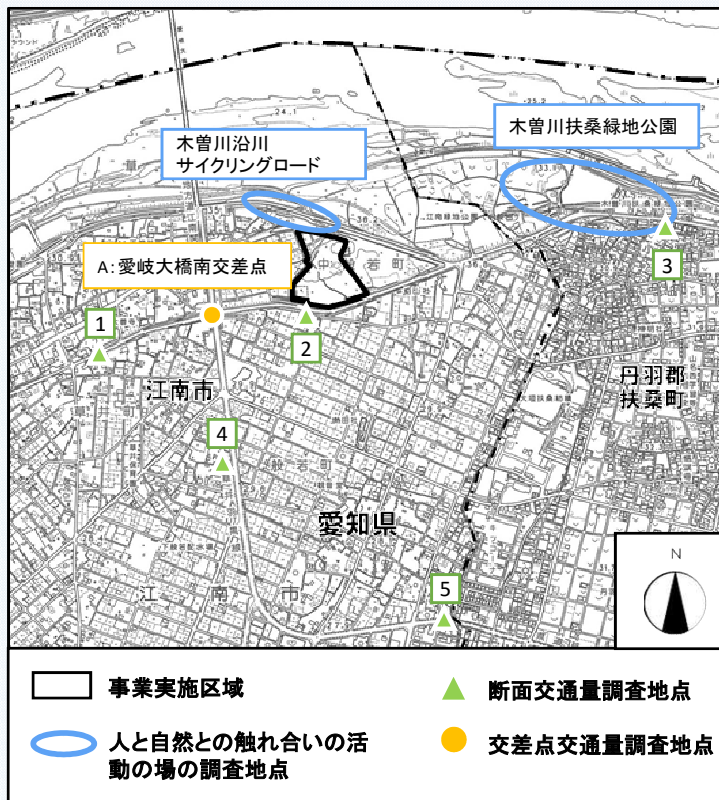
将来は、計画施設の煙突と建物の一部が僅かに出現するが景観の変化は小さいと予測する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因	環境保全措置
施設の存在	圧迫感を低減するため、可能な限り建築物を小さくする。
	建築物は、大きな壁面の分節化や彩度の落ち着いた色彩等に配慮する。
	事業実施区域の周縁部には可能な限り高木による植栽とする。
	建築物は、可能な限り敷地境界からの距離を設ける。



※計画施設の色彩や形状等及び隣接するその他事業実施区域の整備状況については現時点でのイメージです。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

調査結果

木曽川沿川サイクリングロード

- 散歩、ジョギング、サイクリングなど、日常的な利用が中心。



木曽川扶桑緑地公園

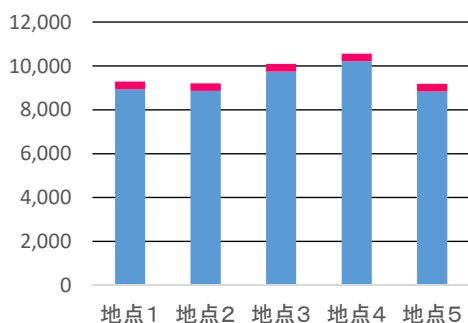
- 公園遊び、散歩、スポーツなど多様な利用形態がみられる。
- 利用者は周辺市町が中心。
- 交通手段は車の利用が最も多いが、平日は自転車・徒歩などの割合が高い。



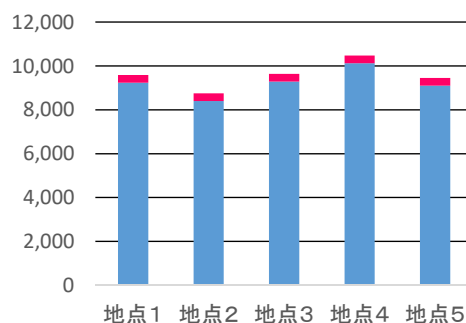
工事の実施 資材等の搬入及び搬出：12時間

項目	12時間交通量(台)					
	平日			休日		
	資材等運搬車両等	全体交通量	寄与割合(%)	資材等運搬車両等	全体交通量	寄与割合(%)
調査地点						
地点1 江南関線	348	9,290	3.7	348	9,587	3.6
地点2 浅井犬山線西側	348	9,210	3.8	348	8,753	4.0
地点3 浅井犬山線東側	348	10,091	3.4	348	9,635	3.6
地点4 草井羽黒線	348	10,562	3.3	348	10,472	3.3
地点5 小淵江南線	348	9,182	3.8	348	9,451	3.7

平日



休日



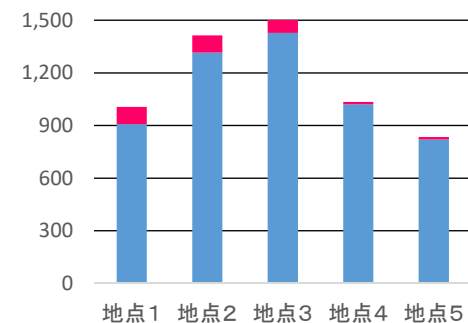
■ 一般交通量 ■ 資材等搬入車両等

工事の実施 資材等の搬入及び搬出：ピーク時間

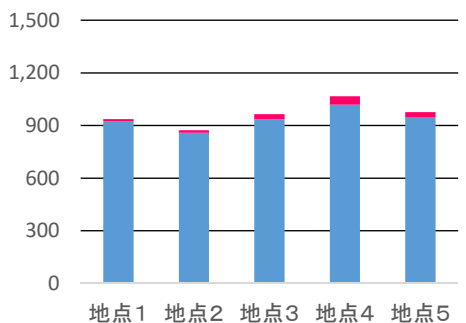
項目	ピーク時間交通量(台)					
	平日			休日		
	時間帯	全体交通量	寄与割合(%)	時間帯	全体交通量	寄与割合(%)
調査地点						
地点1 江南関線	7:00~8:00	908(98)	10.8	16:00~17:00	923(14)	1.5
地点2 浅井犬山線西側	7:00~8:00	1,316(98)	7.4	10:00~11:00	859(14)	1.6
地点3 浅井犬山線東側	7:00~8:00	1,428(98)	6.9	14:00~15:00	935(30)	3.2
地点4 草井羽黒線	16:00~17:00	1,021(14)	1.4	13:00~14:00	1,019(48)	4.7
地点5 小淵江南線	10:00~11:00	820(14)	1.7	14:00~15:00	946(30)	3.2

注) ()は全体交通量のうち、資材等搬入車両等の台数を示す。

平日



休日



■ 一般交通量 ■ 資材等搬入車両等

工事の実施

平日：7時～8時

交差点需要率 0.703

増加量 0.021

交通混雑度 0.833

増加量 0.158

交通混雑度 0.869

増加量 0.049

交通混雑度 0.317

増加量 0.158

愛岐大橋南交差点

©NTTインフラネット, DigitalGlobe Inc.

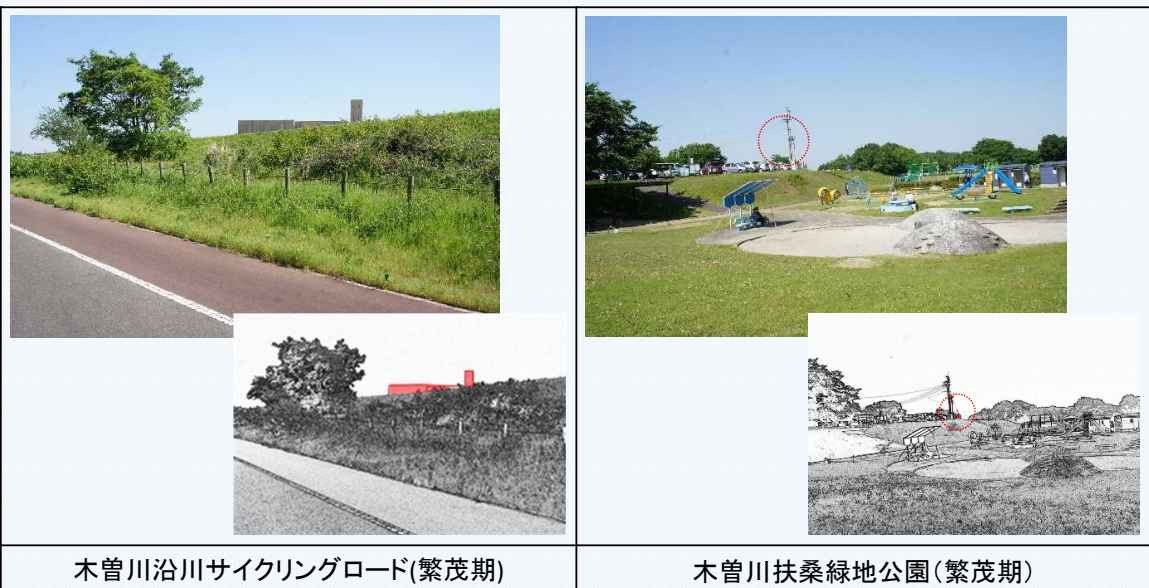
交差点需要率

交通処理が可能とされる目安は**0.9**

交通混雑度

円滑な交通処理が可能とされる目安は**1.0**

→すべての地点で目安となる値以下

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

木曾川沿川サイクリングロード(繁茂期)

木曾川扶桑緑地公園(繁茂期)

注) 将来の計画施設の色彩や形状等については、現時点でのイメージです。

予測結果

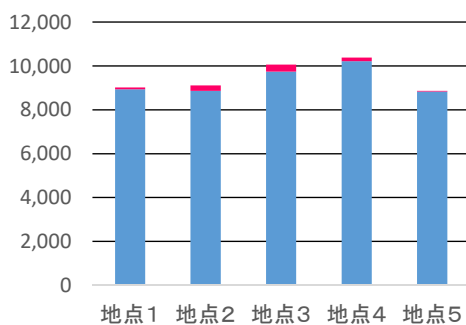
計画施設の煙突の建物の一部が出現するものの景観の変化は小さく、人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、小さいものと予測する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

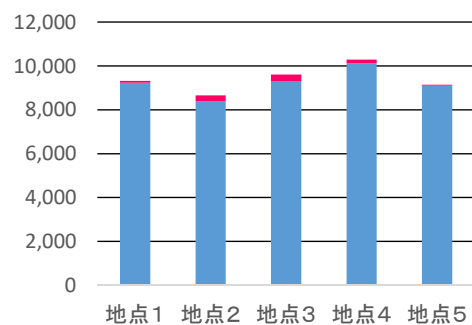
施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出：12時間

項目	12時間交通量(台)					
	平日			休日		
	廃棄物運搬 車両等	全体 交通量	寄与割合 (%)	廃棄物運搬 車両等	全体 交通量	寄与割合 (%)
調査地点						
地点1 江南関線	82	9,024	0.9	82	9,321	0.9
地点2 浅井犬山線西側	252	9,114	2.8	252	8,657	2.9
地点3 浅井犬山線東側	322	10,065	3.2	322	9,609	3.4
地点4 草井羽黒線	170	10,384	1.6	170	10,294	1.7
地点5 小淵江南線	36	8,870	0.4	36	9,139	0.4

平日



休日



■ 一般交通量 ■ 廃棄物運搬車両等

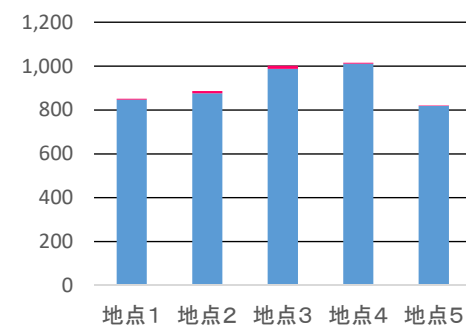
環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出：ピーク時間

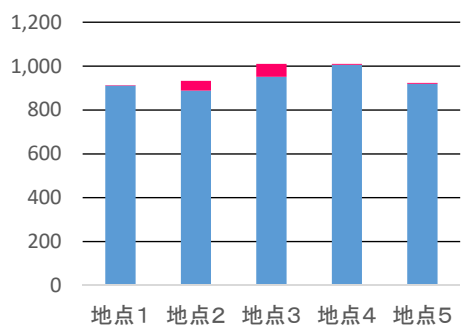
項目	ピーク時間交通量(台)					
	平日			休日		
	時間帯	全体 交通量	寄与割合 (%)	時間帯	全体 交通量	寄与割合 (%)
調査地点						
地点1 江南関線	8:00～9:00	847(4)	0.5	16:00～17:00	911(2)	0.2
地点2 浅井犬山線西側	8:00～9:00	876(10)	1.1	10:00～11:00	889(44)	4.9
地点3 浅井犬山線東側	8:00～9:00	988(14)	1.4	10:00～11:00	952(58)	6.1
地点4 草井羽黒線	16:00～17:00	1,011(4)	0.4	16:00～17:00	1,006(4)	0.4
地点5 小淵江南線	12:00～13:00	818(2)	0.2	14:00～15:00	920(4)	0.4

注) ()は全体交通量のうち、廃棄物運搬車両等の台数を示す。

平日



休日



■ 一般交通量 ■ 廃棄物運搬車両等

施設の供用

平日：10時～11時

交差点需要率 0.746

増加量 0.005

交通混雑度 0.642

増加量 0.109

交通混雑度 0.813

増加量 0.024

交通混雑度 0.149

増加量 0.059

愛岐大橋南交差点

©NTTインフラネット, DigitalGlobe Inc.

交差点需要率

交通処理が可能とされる目安は**0.9**

交通混雑度

円滑な交通処理が可能とされる目安は**1.0**

→すべての地点で目安となる値以下

新愛岐大橋（仮称）
供用時

平日：10時～11時

交差点需要率 0.599

増加量 0.007

交通混雑度 0.457

増加量 0.110

交通混雑度 0.896

増加量 0.023

交通混雑度 0.098

増加量 0.047

愛岐大橋南交差点

©NTTインフラネット, DigitalGlobe Inc.

交差点需要率

交通処理が可能とされる目安は**0.9**

交通混雑度

円滑な交通処理が可能とされる目安は**1.0**

→すべての地点で目安となる値以下

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	工所用車両(大型車)の運転者や工事関係者の通勤車両等(小型車)の運転者に対し、路上駐車禁止や交通ルールの順守、公園を利用する歩行者・自転車の横断及び通行に十分配慮するなど交通安全教育を徹底する。
	工事関係の通勤者には、できる限り自動車の相乗りを指導し、通勤に使用する車両の走行台数を減らすよう努める。
施設の存在	圧迫感を低減するため、可能な限り建築物を小さくする。
	事業実施区域の周縁部には可能な限り高木による植栽とする。
施設の供用	朝・夕の交通量増加時には、廃棄物運搬車両等の台数を抑えるよう努める。



工事の実施

残土の発生量

区分	数量	処理方法
発生土	30,127m ³	発生土は、場内の埋戻土、盛土として再利用を図り、残土は、場外再利用又は適正処分する。
場内再利用土	24,840m ³	
残土	5,287m ³	

建設工事に伴う副産物発生量及び処理方法

発生量	有効利用量	処分量	処理方法
535 t	457 t	78 t	可能な限り資源化を行う。 埋立処分となっている副産物についても、できる限り資源化を図れるよう努める。

伐採木材の発生量

区分	面積(m ²)	伐採木材(t)	処理方法
伐採木材	27,000	1,750	できる限り有効利用が図られる方法で処理を行う。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

廃棄物等 予測結果

施設の供用

施設の供用に伴う廃棄物の発生量及び処理方法

区分	年間発生量(t/年)			処理方法
	ストーカ式焼却炉 + 灰の外部資源化	ガス化溶融炉 ・シャフト式	ガス化溶融炉 ・流動床式	
焼却灰	3,119	—	—	資源化(セメント原料化、 焼成、溶融固化等)
焼却飛灰	1,515	—	—	
溶融飛灰	—	1,320	1,089	資源化(山元還元による 資源化等)
溶融不適物	—	—	87	埋立処分
溶融スラグ	—	3,710	2,317	資源化(路盤材等)
溶融メタル	—	410	—	資源化(カウンターウェイト 等)
金属類	—	—	167	有価資源化
焼却磁性物	235	—	—	有価資源化

廃棄物等 環境保全措置

影響要因	環境保全措置
工事の実施	可能な限り再利用可能な型枠を使用し、建設副産物の発生抑制に努める。
	業者の選定にあたっては、再資源化の実施状況についても考慮する。
	再生砕石の使用等、施設建設において再生材の活用に努める。
施設の供用	焼却灰及び焼却飛灰は、外部での再資源化を行い、埋立処分量を低減する。
	焼却灰、焼却飛灰の搬出にあたっては、適切な運搬車両を用い、灰が周囲へ飛散、流出することを防止する。
	溶融メタルは、カウンターウェイトとしての利用や非金属精錬用還元剤として有効利用する。
	溶融スラグは、路盤材、埋戻し材等として有効利用する。

環境影響
評価の
手続

工事の実施

事業計画
の概要

温室効果ガス排出量(資材等の搬入及び搬出)

単位:t-CO₂/工事中

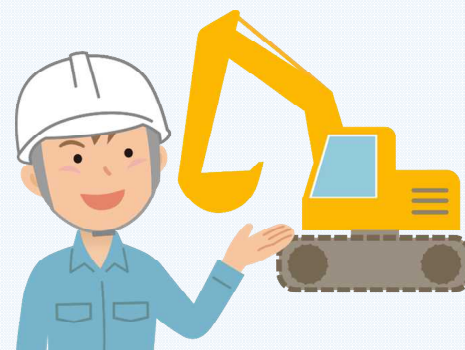
活動区分	車種	温室効果ガス排出量	
			合計
資材等運搬車両等の走行	大型車	338	558
	小型車	220	

周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果

温室効果ガス排出量(建設機械の稼働等)

単位:t-CO₂/工事中

活動区分	温室効果ガス排出量
建設機械の稼働等	1,414

今後の
手続環境影響
評価の
手続

施設の供用

温室効果ガス排出量(施設の稼働)

単位:t-CO₂/年

区分	二酸化炭素排出量	
	ストーカ式焼却炉	ガス化熔融炉
温室効果ガスの排出量(t-CO ₂ /年)①	27,518	33,207
温室効果ガスの削減量(t-CO ₂ /年)②	13,673	13,455
温室効果ガスの排出量－削減量(t-CO ₂ /年)(①－②)	13,845	19,752
削減の程度(%) (②/①×100)	49.7	40.5

事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果

温室効果ガス排出量(廃棄物等の搬入及び搬出)

単位:t-CO₂/年

活動区分	車種	温室効果ガス排出量
廃棄物等運搬車両等の走行	大型車	447
	小型車	106
合計		553

今後の
手続

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

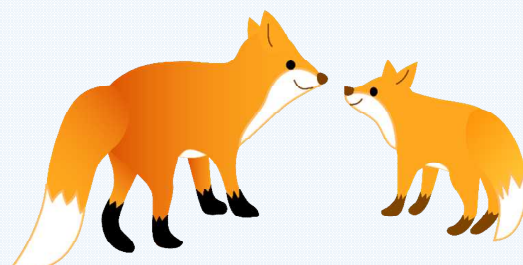
影響要因	主な環境保全措置
資材等の搬入及び搬出	資材等運搬車両等のエコドライブを徹底する。
建設機械の稼働等	建設機械の整備、点検を徹底する。
ばい煙の排出及び 機械等の稼働	廃棄物発電は、より高い発電効率となるよう努める。 施設の設備機器及び照明や空調設備は省エネルギー型の採用に努める。
廃棄物等の搬入及び搬出	廃棄物等運搬車両等のアイドリングストップを徹底する。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

現地調査により事業実施区域での営巣が確認されたホンドキツネについては、効果に係る知見が不十分な環境保全措置を講じる計画であることから、生息地の定着状況を事後調査により把握する。

事後調査計画

	調査項目	調査方法	調査地点	調査回数
動物	ホンドキツネの 生息地の定着状 況の把握	現地踏査及び自動撮 影法による現地調査	事業実施区域 周辺	繁殖期間中の各 月1回程度



モニタリング計画

事後調査とは別に事業者が行う監視として、供用時について、大気汚染防止法等に基づく測定のほか、自主規制値を設けた騒音、振動及び悪臭について測定を実施します。

自主規制値の遵守の履行を確認するための組織として、公害防止委員会を設置する計画としています。

区分		モニタリングの手法等	
		調査地点	調査期間
大気質	酸素、一酸化炭素、 硫黄酸化物、窒素酸化物、 塩化水素、ばいじん	煙突	連続監視
	硫黄酸化物、窒素酸化物 ばいじん、塩化水素	煙突	2ヵ月に1回以上
	水銀	煙突	4ヵ月に1回以上
	ダイオキシン類	煙突	毎年1回以上
騒音	騒音レベル	最寄住宅地を考慮して、 西側及び南側敷地境界 付近の2地点	毎年1回
振動	振動レベル		
悪臭	臭気指数	・脱臭装置排出口 ・排水	

評価手法について

評価手法



基準・目標との 整合

環境基準・規制基準などの、環境保全のための目標や法令の規制値との整合が図られているか。

回避・低減

対象事業に係る環境影響が、できる限り回避又は低減されているか。

環境影響
評価の
手続

公害防止に関する自主基準値を遵守するとともに、適切な環境保全措置を実施することにより、本事業による周辺環境への影響は小さい。

事業計画
の概要

ホンドキツネについては、事後調査を実施し、環境への著しい影響が確認された場合またはそのおそれがある場合には、必要な措置を講じることで環境影響を回避し、または低減する。

周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

総合評価結果

基準・目標との
整合

環境保全に関する基準等と調査及び予測の結果との間に整合が図られていると評価する。

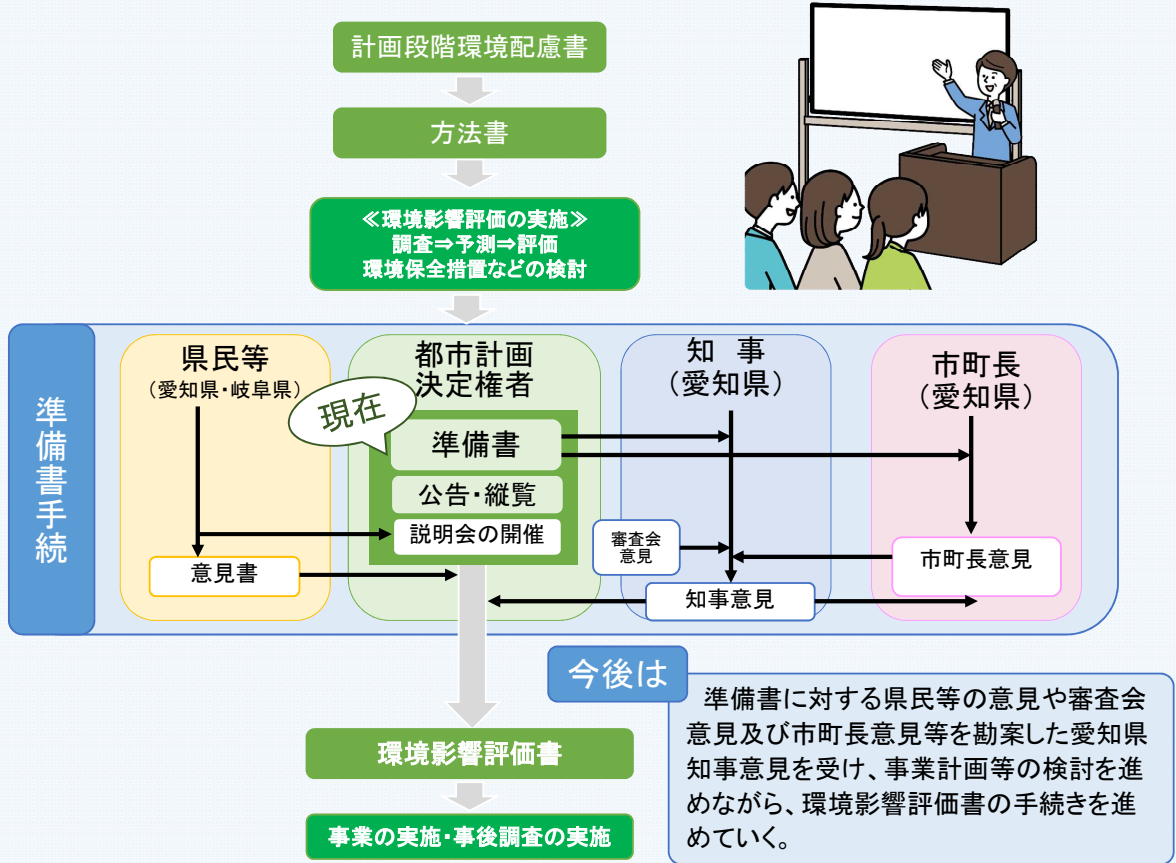
回避・低減

実行可能な範囲内でできる限り回避・低減が図られており、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

今後の手続


今後のスケジュール

- 環境影響評価の
手続
- 事業計画
の概要
- 周囲の
概況
- 環境影響
評価項目
の選定
- 調査
予測及び
評価結果
- 今後の
手続



準備書の縦覧について

- 環境影響
評価の
手続
- 事業計画
の概要
- 周囲の
概況
- 環境影響
評価項目
の選定
- 調査
予測及び
評価結果
- 今後の
手続

縦覧場所	<p>江南市経済環境部環境課 江南市布袋支所 江南市宮田支所 江南市草井支所 犬山市経済環境部環境課 大口町まちづくり部環境対策室 扶桑町産業建設部産業環境課 各務原市市民生活部環境室環境政策課</p> 
縦覧期間	<p>令和2年8月14日(金)から9月14日(月)まで 《土曜日、日曜日は除きます。》</p>
縦覧時間	<p>午前8時30分から午後5時15分まで</p>

注) 江南市のウェブページ(<https://www.city.konan.lg.jp/>)からもご覧になれます。

環境影響
評価の
手続事業計画
の概要周囲の
概況環境影響
評価項目
の選定調査
予測及び
評価結果今後の
手続

提出先	江南市 経済環境部 環境課 〒483-8701 愛知県江南市赤童子町大堀90番地
提出方法	提出先への持参または郵送 ※持参の場合には、各縦覧場所でも提出できます。
提出期限	令和2年9月28日(月) ※郵送の場合には当日消印有効
意見書に必要な記載事項	準備書の名称 住所及び氏名(法人その他の団体は、その名称、 代表者の氏名及び主たる事務所の所在地) 準備書についての環境保全の見地からの意見 (日本語で意見の理由も含めて記載)

ご清聴ありがとうございました

